

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人愛信芳主会	代表者	塚本恵里香	法人・事業所の特徴	カトリック精神に基づき愛と真心を持って福祉事業に努める。 「施設理念」として①笑顔を提供する ②とにかくやってみる ③残りの時間を大切に考える ④本人や家族の想いを考える ⑤プロとして学び行動する
事業所名	丘の上倶楽部片倉	管理者	亀井裕之		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	3人	0人	0人	0人	0人	2人	0人	6人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	①中間点で達成度の評価を行う。	コロナ禍の継続により、予想以上に活動が再開出来ず、評価が出来なかった。	コロナ禍が予想以上に継続したため、様々な活動が止まってしまい、評価を行う事が出来なかった。	①「事業所自己評価」と「総括表」の改善計画について、年度中間点で再確認を行う。
B. 事業所のしつらえ・環境	①感染症予防対策を実施し、清潔で快適な環境を提供する。	建物も清潔に保ち、快適な空間を提供出来ている。 建物2階に事業所があるため、どうしても、自由に出入りできる空間ではない。	カギの件についての設問意図が判りづらい 小多機のイメージとして開放的で自由に近所の人や子供たちが出入りできるような環境を想定していると思われる設問だが、当事業所の玄関自動ドアについては、自由に開閉させておくことは出来ない。	①玄関などに看板やポスターなどを設置して、気軽に訪問してもらえるような工夫をする。 ②感染症対策を継続しながら、快適で安全な環境を提供する。
C. 事業所と地域のかかわり	①感染症予防対策を実施し各種の活動へ参加を再開していく ②広報誌などを用意し、近隣町会などへ配布を行う	各種活動への参加の再開は、コロナ禍の継続が長引いたため出来なかった。 広報誌の発行は手間がかかり実現出来なかった。	改善計画に広報誌の用意が有ったが、発行に手間がかかり実現出来なかった。この事業所はホームページがまだ無いので、次年度はホームページを作成出来ればと思います。	①ホームページを活用して、情報発信を進める。 ②感染症対策を実施した上で、様々な活動への参加再開を進める。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	①本人や家族の意向を確認し、感染症予防対策を実施しながら、地域での活動をサポートする。	受診の同行や送迎等は継続して実施しているが、コロナ禍での外出自粛もあり、活動が少なかった。	予想以上のコロナ禍の継続により、地域や外部との交流等は出来なかった。	①本人や家族の意向を確認し、感染症予防対策を実施しながら、地域での活動をサポートする。
E. 運営推進会議を活かした取組み	①感染症予防対策を実施した運営推進会議を開催する。 ②本人や家族、外部からの会議参加者を増やす	年6回中、2回が集合する形で行う事が出来たが、その他は書面にて実施した。 本人、家族の参加はコロナ禍もあり、進まなかった。	年度途中に集合する形で2回開催出来た。	①感染症対策を実施した上で様々な活動を継続出来るようにする。今までとは違う方法での実施を取り入れる。
F. 事業所の防災・災害対策	①感染症対策を考慮した防災訓練を実施する。 ②感染症発生時の事業継続について、準備を整える。	法人内にて備蓄の整備を進め、他事業所との連携を図っている。	町会では今は住民を呼んで訓練をする事は無くなりました。 施設と協定を結んでいる所はありません。 地域でも高齢化が進んでいて、どちらかと言うと助けてほしいくらいです。	①防災計画を職員会議にて回覧し、全員に目を通してもらう。